神奈川県生活協同組合連合会

神協連ニュース

No.468 2020年11月20日

横浜市港北区新横浜2丁目6番地13
新横浜ステーションビル9階　〒222-0033
TEL　045-473-1031（代表）
FAX　045-473-9272
Email:kccf@qf7.so-net.ne.jp
http://www.coopkana.jp

ヒバクシャ国際署名まとめ会

「二度と核兵器を使わせてはならない」とする被爆者の呼びかけに心より賛同する神奈川県の生協と神奈川県原爆被災者の会でつくるヒバクシャ国際署名生協推進委員会は、2016年9月23日にキックオフ集会を行って以来、ヒバクシャ国際署名活動を中心に取り組みを広げ、つながりを作ってきました。4年に渡り取り組んできた署名活動の区切りとしてまとめ会を開催しました。

この間に生協推進委員会より神奈川県原爆被災者の会にお渡しした署名は46万4,077筆となり、神奈川県原爆被災者の会扱いの署名は56万6,989筆になりました。ご協力ありがとうございました。

原水協の皆さまが集めた署名を含めて神奈川全体で93万9,088筆。全体で1,261万2,798筆（2020年9月18日）となり、国連総会の開催に合わせて10月5日にこれまでの署名の目録が提出されました。

■ 日 付／2020年10月22日（木） 13:30～14:20
■ 会 場／ワークピア横浜　3階
■ 参加者／12団体 29名
（1団体2名以下にお願いしての開催としました）
■ 主 催／ヒバクシャ国際署名生協推進委員会
（神奈川県原爆被災者の会、神奈川高齢者生協、神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会、労協センター事業団神奈川事業本部、ユーコープ、パルシステム神奈川、生活クラブ生協、福祉クラブ生協、富士フイルム生協、川崎医療生協、医療生協かながわ、神奈川みなみ医療生協、神奈川北央医療生協、横浜国立大学生協、宇宙科学研究所生協、やまゆり生協、神奈川県生協連）
■ 取 材／インターネットジャーナル株式会社
■ 次 第／司会：大杉 恭子　福祉クラブ生協副理事長
挨拶：當具 伸一　ヒバクシャ国際署名生協推進委員長
ヒバクシャ国際署名（目録）お渡し式
署名お渡し　當具 伸一委員長から丸山 進会長へ
ご挨拶：丸山 進　神奈川県原爆被災者の会会長
ビデオメッセージ：
林田 光広　ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダー
活動紹介：「ヒバクシャ国際署名2017～2020」
佐藤 有美子　パルシステム神奈川理事
「コロナ禍の平和活動報告」
梶 静　ユーコープ理事
神奈川県原爆被災者の会から：
木本 征男　神奈川県原爆被災者の会副会長
閉会挨拶：藤田 順子　パルシステム神奈川理事長

横浜北生活クラブで
SDGs研修を実施

■ 日　時／2020年10月27日（火）10:00～11:35
■ 会　場／生活クラブくらしてらす　3階
■ 参加者／23名　横浜北生活クラブ21名、運営側2名
■ 研修内容／「SDGsの視点を学ぶ～私たちの活動に引き寄せて～」
■ 講　師／石田 昌美　神奈川県生協連 統括マネージャー

横浜北生活クラブは、横浜市の緑区、青葉区、都筑区、港北区、鶴見区をエリアとしてコモンズ、デポーという組織を主体に組合員が地域で活動しています。この度、SDGsをテーマとする研修を行い、県生協連は運営に協力しました。
研修は、講義と個人ワーク･グループワークを通してSDGsの理解を深め、生活クラブの活動に触れながら、どのようにして「誰一人取り残さない」社会を実現していくか、考えるものとして企画されたものです。

生協をはじめとする協同組合は、これまでも貧困や飢餓などの問題に取り組んでおり、国連によりSDGsを達成するために重要なステークホルダーの一つとして位置づけられています。

日本では、経済最優先社会がもたらすひずみは格差貧困をさらに広げ、社会を脅かしています。今こそ協同組合は、協同する力で私たちが願う持続可能な社会を実現するために、共感を広げ、参加をふやし、くらしや地域から発信していくことが大切です。私たちが仲間と一緒に考え、つながりを拡げて行動を起こせば、この社会は必ず変えることができます。

医療生協かながわ
第1回社会保障学校開催
～プラスチック問題と私たちができること～

医療生協かながわは、医療や福祉の事業と、健康づくりやまちづくりの運動を通じて、「地域まるごと健康づくり」をすすめています。「昨日よりも今日が、そして明日が、いっそう意欲的に生きられる」という健康観をくらしの中で実現するために、様々な組合員活動があり、「安心・安全にくらせる社会について学ぶ」ことは大切なことです。今日、世界では海に年間少なくとも 800 万トンものプラスチックごみが流れこんでいます。海には既に1億 5,000 万トンものプラスチックごみがあり、マイクロプラスチックの問題も浮かび上がっています。軽くて変質しにくく、便利さと安価で急速に生活の中で拡大したプラスチックですが、今、大きな問題となって私たちに突き付けられています。

■ 日 時／2020年10月22日（木）14:00～16:00
■ 会 場／医療生協かながわ　戸塚診療所 2 階 大会議室
■ テーマ／プラスチック問題と私たちができること
■ 内 容／司会：守屋 隆雄　医療生協かながわ常務理事
講師：石田 昌美　県生協連統括マネージャー　補助者 1 名
内容：お口の体操：パタカラ体操 / 講演：プラスチック問題と私たちができること / 個人ワーク･グループワーク / 発表 / 質疑

かながわスマートエネルギー計画に関する学習会

安心で安全なエネルギーの安定供給を受けることは、みんなの願いです。私たちは東京電力福島第一原発の大事故以降、原子力エネルギーに頼らない社会の実現を目指し、2012年8月に条例制定連絡会を立ち上げ、神奈川県における省エネルギー･再生可能エネルギーを推進する条例の制定を求める取り組みをすすめました。団体署名1075筆、個人署名23万筆超が寄せられた県民の願いと協同組合の連携した取り組みは、2014年4月施行の「神奈川県再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例」制定の大きな原動力となりました。

県ではこの条例に基づく計画として、2030年度を見通した目標や基本政策等を定めた「かながわスマートエネルギー計画」を2014年4月に策定し、太陽光発電など再生可能エネルギー等の導入拡大に取り組んでいます。

■ 日 時／2020年10月12日（月）15:00～16:40
■ 形 式／オンライン学習会
■ 参 加／10団体　25名
■ 内 容／
講演①「世界の再生可能エネルギーの状況」
講師：大林 ミカ　公益財団法人 自然エネルギー財団事業局長
講演②「かながわスマートエネルギー計画の進捗と課題」
講師：武川 晴俊　神奈川県産業労働局産業部エネルギー課　課長

神奈川まるごと健康づくり

「健康」はすべての人の願いです。
フレイルを予防するための重要なポイントは「栄養（食・口腔機能）」「運動」「社会参加」です。
この3点は体の免疫機能を高めるための重要なポイントでもあります。

川崎医療生協×福祉クラブ生協

コロナ禍でも健康づくり 地域再発見ウォークラリー

医療福祉生協では、「地域まるごと健康づくり」を合言葉に、医療・介護・福祉が必要になる前に、健康に暮らせる保健予防活動を行っています。

コロナ禍で組合員の生活も大きく変わりました。班会は少しづつ再開し始めていますが、食事会やうたごえサークルなど、感染リスクが高い集まりはなかなか再開の目途が立ちません。各地で行っていた健康まつりも中止となっています。

「何か組合員や地域の人がつながる企画ができないか」と考え、ウォーキングイベント企画を行う事にしました。この取り組みには生協の仲間である、福祉クラブ生協のご協力も頂いています。

企画名 「ウォーキングで健康維持! 地元を歩こうキャンペーン」
コロナ禍でも健康づくり
地域再発見ウォークラリー

目　的 ウォーキングイベントをきっかけに、外出することでフレイル予防につなげ、巡るポイントの中に法人の事業所を入れることで、事業所利用につなげます。

やっていますか? 健康チャレンジ 2020

健康づくりは、きっかけがないと始めないもの。いつも出来ていないことを一つ「これをやろう、がんばろう」と決めて、10月・11月の間に30日間以上取り組むのが健康チェレンジです。コロナ禍の中、免疫力アップを目指して今からでもやりましょう。

神奈川県生協連健康チャレンジ

健康チェックが再開

支部の活動が再開し、各地域で健康チェック、貯筋講座、オーラルフレイル予防講座など

10月・11月は例年、医療福祉生協の「生協強化月間」です。この時期の生協強化月間は、消費生活協同組合法（生協法）が10月1日に施行されたことに由来します。監督官庁の厚生労働省が毎年10月を生協強化月間と位置付けています。生協強化月間は、生協を語り、広く市民に生協を知っていただき、多くの新しい組合員を迎え入れることで生協の基盤を強化する「助け合い支え合いの社会を広げる集中期間」として全国の生協で取り組まれているものです。

2020平和のための戦争展 inよこはま

平和のための戦争展は、戦後50年を迎えた翌年の1996年から、悲惨な戦争を繰り返さないために、若い世代に伝えていこうと開催されています。横浜市が1945年当時、米軍の原爆投下目標都市の一つであったのはご存じでしょうか。横浜市が原爆投下目標から外されたのは、1945年5月28の目標選定委員会でした。そしてその翌日の爆撃こそ「横浜大空襲」と呼ばれるもので、この1回の爆撃により旧横浜市全域がほぼ焼失し壊滅的な被害を受けました。推定8千人ともいわれる死者を出した横浜大空襲。米軍はB29爆撃機517機により横浜市の中区、南区、西区、神奈川区を中心に無差別爆撃を行いました。投下された焼夷弾は約43万9千発、約2,570トンにもなりました。

初日には、「人類は、核兵器とは共存できません」と題して、横浜原爆被災者の会会長・被団協事務局次長の和田征子さんのお話がありました。

■ **名 称**／見つめよう! 語り合おう! 戦争の過去といま
第25回平和のための戦争展inよこはま 戦後75年・横浜大空襲から75年

■ **会 場**／横浜駅西口 かながわ県民センター 2階　ホール

■ **日 時**／2020年10月10日（土） 13:30～16:00
11日（日） 13:00～15:30

■ **主 催**／平和のための戦争展inよこはま実行委員会

立憲民主党神奈川県総支部連合会の皆さまと
懇談会を実施しました

国に対する制度・政策要望ならびに予算要望をお伝えし、国の施策・予算等に反映させていただくために、2020年11月9日、立憲民主党神奈川県総支部連合会の皆さまと懇談しました。

医療機関の経営状況や大学生の置かれた現状、フードバンク活動への支援のあり方などについて意見交換が行われ、有意義な懇談となりました。

■ **開催日**／2020年11月9日 13:20～13:50

■ **会　場**／横浜市開港記念会館　会議室

要望項目

1. 医療、介護事業に関する要望
2. 大学生への学業・くらしに関する要望
3. 食品ロスの削減とフードバンク活動への支援に関する要望
4. 消費者のくらしの支援に関する要望
5. 核兵器禁止条約に関する要望

「横浜カジノ問題の現在」学習会

神奈川県消団連は、10月23日に「横浜カジノ問題の現在」をテーマに、公開学習会を開催しました。横浜市の林市長は2019年8月22日、カジノを含む統合型リゾート施設（IR）を誘致することを表明し、新型コロナ感染症の流行の中でも準備を進めています。しかし、カジノについては多くの市民が反対しており、コロナ禍のもとでは推進しようとする施策そのものが根本から問われています。またカジノの影響は横浜にとどまらず県全体に及ぶ問題であり、県民全体で考えなくてはなりません。

県消団連は、2017年1月にカジノを含む統合型リゾート（IR）の整備を促す「特定複合観光施設区域整備推進法案」の可決にあたり、「『ギャンブルで経済成長や地域活性化』という考え方は受け入れません。」と表明して以来、意見書の提出や学習会を重ね、2020年3月には、横浜市の林市長がIRを誘致する表明を出したことに反対する内容で出しました。今回の学習会では、横浜市従業員労働組合の政村修委員長から、カジノをめぐる基本的な争点と現在の動き、更にはカジノを含む統合型リゾート施設（IR）の横浜市への誘致の賛否を問う住民投票をめざす署名運動の状況にも触れてお話して頂きました。

（署名は住民投票条例制定の直接請求に必要な約6万2,500人分の2倍以上となりました）